



学校給食風景（鹿屋小学校）

昔 昭和37年



今



子どもたちが学校生活で一番楽しみにしている時間は「給食」の時間ではないでしょうか。写真は昭和37年の鹿屋小学校での給食風景で、この日の献立はパンとミルク、わかめのみそ汁でした。最近はコロナ禍ということで、黙って静かに食事。おしゃべりをしながらの楽しい給食の時間が戻ることを、みんな心待ちにしています。



クラスへの配達は上級生が担当



山の斜面を利用して作られた自然の家。建設中の建物は、完成間近の屋内運動場。

国立大隅青少年自然の家は、昭和61年に全国で10番目、九州では長崎県諫早市に次ぐ2番目の自然の家として開所し、本年9月で35年目を迎えます。

設立の発端は昭和47年。当時の文部省が学制創設百周年記念事業として「国立少年自然の家」を全国12か所に設置する構想を発表しました。誘致合戦が展開される中、市では文部省や大蔵省などへの陳情活動が続けた結果、鹿屋への設置が決定。その後、建設予定地である花里町の土地所有者等との協議が行われ、席上には「地元にぜひ自然の家を」という町内会の全世帯がオプザトバーとして出

席し、土地所有者を含む花里町内会全員で協力していくことを申し合わせました。以後、取付道路や上水道施設、用地の造成などの整備を昭和59年までに実施。自然の家の本体工事である管理研修棟の建設は、同年10月から始まりました。こうして自然の家は、昭和61年9月にオープン。誘致活動から10年以上経過していました。

長年にわたり、多くの市民に自然の素晴らしさや様々な体験活動の機会と場を提供してきた同施設。開所以来、250万人を超える利用者が訪れ、現在も「おおすみくん家」の愛称で親しまれています。



開所式では、鶴羽小・南小・花岡中の児童や生徒169人が参加してオープンを祝いました。

カノヤタイムトラベル

期待と希望に湧く施設が開所！

昔、鹿屋で起きた出来事にクローズアップ！